


特定非営利活動法人 日本免疫学会
2024年度 前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	立松 恵	会員番号	0036848	
申請者の所属・職名	秋田大学大学院医学系研究科 ・助教			
出席会議名	5 th International Conference on Innate Lymphoid Cells (ILC5)			
発表論文タイトル	ILC1 quiescence confers protection against viral infection under calorie restriction			

実施結果:

この度は、Tadimitsu Kishimoto International Travel Award に採択いただき誠にありがとうございました。

私は2024年7月15日から17に、ケンブリッジにて開催されました5th International Conference on Innate Lymphoid Cells (ILC5)に参加致しました。本会は、2年に1度の自然リンパ球関連の国際学会であり、自然リンパ球の研究者が世界各国から集まりました。口頭発表、ポスター発表ともに未発表データを含めたプレゼンテーションが多くあり、最近の研究動向を知る良い機会となりました。私はポスターセッションにおいて、ILC1 quiescence confers protection against viral infection under calorie restriction というタイトルで 低栄養状態での ILC1 によるウイルス感染制御について発表しました。低栄養状態のモデルマウスにおいて、グループ 1 ILC のうち NK 細胞は細胞数が極端に減少するのに対し、ILC1 の細胞数はほとんど影響を受けないという内容で発表を行い、予想していた以上に多くの方が聞きに来てくれました。メカニズムについてはまだ十分に分かっておらず、興味深い質問やコメントを受けることができ勉強になる部分も多く、非常に良い議論ができたと思います。特に、3つのグループの自然リンパ球のうち、ILC2 や ILC3 と比較しても ILC1 を研究しているグループは国内でもあまり多くない中で、ILC1 を取り扱ってる海外の研究者と話すことができたことはとても良い収穫でした。細胞の調製方法などについて、論文には書かないような細かな手技の違いなども話し合えて有益な情報交換となりました。

今回の学会参加は、発表を聞いて近い研究領域の状況を知ること、自分の研究を知ってもらいフィードバックを得ること、自然リンパ球研究のコミュニティで海外の研究者と交流をもつこと、といった目的を果たすことができ大変充実したものでした。COVID-19 の影響もあり久しぶりの国際学会参加でしたが、自分の研究に興味をもってもらい様々な反応を得ることはやはり研究へのモチベーションを高めることになると実感したところです。

最近の海外渡航費、滞在費は高騰しており、限られた研究費からの国際学会参加は悩ましいものとなっています。その中で、Tadimitsu Kishimoto International Travel Award により支援をいただいてオンラインでイギリスでの学会に参加できたことに心より感謝いたします。この機会でも得られたものを生かし、免疫学研究所の発展に少しでも貢献できるよう、より一層研究活動に励んでいきたいと思っております。